

在来マス類種苗生産試験

(アマゴ種苗生産配布事業)

和泉 安洋・尾田 文治

平成9年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重約4g)として4月現在90,000尾を生産した。このうち、平成10年4月に養殖用種苗として16,000尾、5月に河川放流用として40,000尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成8年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成10年10月まで飼育した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は約400gであった。

採卵には、雌魚1,424尾から約1,400,000粒(1尾平均約980粒)の卵を得て発眼卵1,260,000粒(発眼率90%)を生産した。このうち民間養殖業者に440,000粒を有償配布した(表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系が使用され、このうち1号水系は、谷合の表流水を集めて使用し、平成10年4月～平成11年3月における水温は7.3～17.4℃の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は2.4～22.8℃の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく量的にも安定していた。

表1 平成10年度アマゴ生産状況

採卵用親魚(雌)	1,424 尾
採卵用親魚(雄)	150 尾
採卵数	1,400,000 粒
1尾あたりの採卵数	983 粒
発眼卵数	1,260,000 粒
発眼率	90 %
養殖用種卵(売却)	440,000 粒
春稚魚用発眼卵	130,000 粒
春稚魚用浮上卵	120,000 粒
浮上率	92 %